

中世から江戸時代

館山の歴史とその変遷をたどる

館山の歴史は戦国時代末期に表舞台に登場します。当時、館山には留守家の家臣・村岡氏の居城があり、村岡城と呼ばれていました。村岡城の築城年は不明ですが、村岡氏は鎌倉時代に奥州統治を担った留守家の一族であり、留守氏とともに南向いているので鎌倉時代以来の城館だと考えられます。留守氏は当初勢力を誇るものの、次第に衰退。戦国時代に伊達家の影響力が強くなってくると、伊達家から養子を迎え一族の再興を図るようになります。これに血筋を重視する村岡氏が反発、一族同士の内紛へと発展しました。

元亀元年（1570）、伊達家から入嗣した留守政景が村岡氏を攻め滅ぼします。政景はその後、本拠を岩切城から利府に移して城を改修。この際、地名も「村岡

から「利府」にし、利府城を本拠として統治を行ったとされています。しかし、その統治は長く続きません。天正18年（1590）、豊臣秀吉による奥州仕置で留守氏は所領を没収され、利府城も廃城となります。その後、利府は仙台藩の直轄となり、石巻街道の宿場町（利府宿）として整備されることになりました。

利府宿には、政宗をはじめ歴代の藩主が鷹狩の際に滞在した園城寺（えんじょうじ）や、石巻街道沿いに建立された唯一の観音堂（長龍寺）などがありました。観音堂には旅の安全を願って、多くの旅人が訪れたそうです。また、庶民教育が盛んで、街道沿いには富士溪塾などの寺子屋が設置され、教育熱心な風土と篤志家を生む土壌が育まれました。廃城となっても、その麓の城下では街道を通じて人・物・情報が活発に行き交い、利府は発展していったのです。

COLUMN

利府城ってこんなに大きかったの!?

利府城の規模はどれぐらいのものだったのでしょうか。一説によると、西はイオンモール利府北館付近の丘陵部、東は「桜の園」より東北部にある山頂地点までを城域とするのだそうです。下図は「岩切歴史探訪の会」の松本忠雄氏により作成された利府城跡立体地形図です。リフノスに展示されているのを見てみよう!



▲利府城跡立体地形図

明治から昭和

桜を植樹し守り育てる町民の思い

明治時代、利府は急激な近代化が進む日本の中で比較的緩やかな変化を遂げました。昭和38年（1963）発行の「利府村誌」によると、当時の利府には、茅葺屋根の家々が並ぶ風景が広がっていたとされています。この頃、近代的な建物はほとんど見られず、生活様式も昔ながらのもので、街中を流れる名古曾川や水路で食器や米を洗う日常の風景が見られるなど、伝統的な暮らしが続いていました。昭和40年代に利府バイパスが完成し、車の普及とともに街並みや生活様式は大きく変わりましたが、それ以前は、まさに昔ながらの生活が営まれていたのです。

また、利府の周辺の山林は村人たちの生活域の一部となっており、館山も薪炭林（しんたんりん）や秣場（まぐさば）として利用されていました。薪炭林とは薪を供給する山林のことで、秣場とは馬や牛の世話をするための藁や草を供給する場のことです。今では想像が付きませんが、利府では昭和40年代まで農作業に牛馬を使っており、館山は秣場として大切な役割を担っていたものと思われます。しかし、館山を始めとするこれらの山林は計画的に管理されていたわけではありません。とりわけ自然災害や戦争、敗戦後といった非常時には大量の木材を必要としたため荒廃してしまいました。館山も例外ではありませんでした。

そのような中、明治44年（1911）に館山に初めて桜が植えられました。この桜の植樹は、24歳の高橋清六氏を中心に利府区青年会によって行われ、100

本の苗木を植えたこととされています。翌年、清六氏は大正15年（1926）に利府村長に選ばれ、通算で約17年間利府村の発展に寄与しました。

その後、利府村が町に昇格した昭和42年（1967）に、地権者73名から館山の隣地2,580㎡を寄贈され、館山は記念公園として整備されました。さらに昭和50年（1975）には「館山を守る会」が結成され、荒畦の整地や遊歩道の改修、桜の補樹が行われました。こうした住民の献身により、館山に花が彩られ地域の象徴となっていきました。

▲1960年代の館山の様子（国土地理院ウェブサイト）

高橋清六氏



高橋清六氏

特集

THE STORY OF TATEYAMA PARK 館山公園物語

春になると桜が咲き誇り、地域の憩いの場となる館山公園。利府町のほぼ中心に位置し、標高約90mの高台を彩るその光景は、隣接する塩釜市や多賀城市からも楽しめます。見頃の時期には、多くの人々が花見に訪れるスポットです。

そんな館山公園は、平成8年（1996）に城址公園として開園し、今年で30年目を迎えます。そこで今回は、館山公園が位置する「館山」の歴史にスポットを当ててみましょう。中世から現代にかけて、館山にはどんな歴史があり、どのようにして桜の名所となったのでしょうか。調べてみると、そこには地域の発展に尽力した住民とともに、人々と憩いの場の創設を目指した行政の姿が浮かび上がってきました。

▼1970年代の館山周辺の様子（国土地理院地図ウェブサイト）



文責 tsumiki 石井宏之

館山公園 TATEYAMA PARK



利府の寺子屋

仙台藩の寺子屋は、利府が発祥といわれています。利府は庶民教育が熱心で、10か所以上の寺子屋があったのだとか。今に繋がる「志教育」ですね!



(利府村誌)

CHALLENGER 裏面に関連記事あり

地蔵が子どもの恰好をして老夫婦の代掻きを手伝った伝承が伝わっています。「鼻取り」とは牛馬の鼻を縄でくくり誘導して田畑を耕すのことをいうのだそうです。



鼻取地蔵

留守政景が利府に移った翌年の元亀2年（1571）に開山。伊達家との縁が深く、屋根瓦には伊達家の家紋である三引両紋が使用されています。



園城寺

観音堂（長龍寺）

慶安3年（1650）に園城寺の李白和尚により開山。境内に建つ観音堂の堂内には、山形の立石寺から下賜された33体の観音様が据えられています。



利府のシンチュウナシ（町指定文化財）

利府駅前の2号公園には、利府梨の父・日野藤吉氏が初めて植えたといわれている真鍮梨があります。昨年4月に町の指定文化財となりました!



馬頭観音の碑

八幡神社の境内に馬頭観音の碑があります。馬頭観音は馬の供養や健康を祈るもので、農民や旅人の守護神として信仰されました。

郵便局



利府小学校の後ろから



利府城跡の大イチョウ

イチョウの巨木は、「利府城の主人であった留守政景の娘美竹姫の安産と母乳が豊かになるようにと祈願したもの」という言い伝えがあります。秋の紅葉の頃は、鮮やかな黄色の絨毯が一面に広がります。

場所●宮城県宮城郡利府町利府（利府町指定文化財）
樹種●イチョウ
推定樹齢●450年以上
樹高●29メートル（目測）
幹周●8～9メートル（目測）

留守政景の時代からあるということは、だいぶ長生きだね〜 パワースポットになりそう! ご利益、ご利益!

館山公園（利府城跡）桜の園

桜の名所、館山公園。標高約90mの高台にあることから利府の町並みを展望できる眺望スポットとなっています。

館山公園では「利府大花見会」を開催しています! 紅色にライトアップされた幻想的な風景が広がり、写真映え間違いなし! 昨年は、利府町長のお点前披露や観光大使によるライブ、キッチンカーも出店してにぎわいました。今年の春も開催予定です! ぜひ、美しい桜を見て春の思い出をつくりましょう!

今回の目的地に到着! 桜が綺麗〜 ぜひ、皆さんも館山公園に見に来てくださーいね!

留守氏も村岡氏もここから、街を眺めていたのかな〜

館山公園の桜を見に行こう!

案内人 ● 利府町地域おこし協力隊 佐々木 利府町のんびりまち歩き 出発!

2023年9月から利府町に住んで1年半。利府町地域おこし協力隊佐々木響が、春に訪れたいスポットを紹介するよ。館山公園の綺麗な桜を見て、春を感じよう!

春が来た! さあ、利府町を堪能するぞ! と、その前に...

スタート 利府町まち・ひと・しごと創造ステーション

カフェ、コワーキングスペースとして使える自由な空間。利府町の特産品などの物販もあるし、コーヒーなど美味しい飲み物が飲めてゆっくりつらげます。



あ、いけない! 心地よくてくつろぎすぎてしまった! 先を目指そう!

あ、いけない! 心地よくてくつろぎすぎてしまった! 先を目指そう!

利府町文化交流センターリフノス

図書館や公民館、文化会館が並ぶ文化複合施設。世代問わず楽しめる憩いの場。その中にあるカフェレストラン「アリーノ」では、地元食材を使ったメニューも味わえます。店長おすすめの「利府梨カレー」をいただき大満足。



カレー大盛りで腹ごしらえ。目的地に向けて再出発!



地域おこし協力隊 × 「レーブ・ド・ルピナス」ポップアップ出店

利府町のにぎわいづくりに取り組む地域おこし協力隊と、現在長期休業中の洋菓子店「レーブ・ド・ルピナス」がコラボレーションし、ポップアップ販売会を行いました。「レーブ・ド・ルピナス」は、2024年8月末に利府町内での営業を終了し、長期休業に入りました。長年、地域の人々に愛される洋菓子店として親しまれてきたため、閉店を惜しむ声が多く寄せられました。その声を受けた地域おこし協力隊が「再びルピナスさんの味を届けたい」と声をかけ、今回のポップアップ出店が実現しました。販売会では、地域おこし協力隊が開発したオリジナルドリンク「リフコーラ」と

「ナンソーダ」も一緒に並びました。これらは、特産品である利府梨の規格外品を活用し、町の資源を無駄にしない取り組みとして生まれた商品です。ルピナスさんの常連客だった家族連れなど多くの方が訪れ、懐かしい味を楽しむ姿が見られました。「また販売の機会を作りたい」と感じるほどの好反応が得られ、地域のつながりを感じる会となりました。これから町の魅力を再発見できるような企画を続けていく予定です。

- レーブ・ド・ルピナス【焼菓子、利府町】長期休業中ですが、焼菓子などの一部商品はtsumikiのセレクトショップで販売。
- create company【リフコーラ・ナンソーダ、利府町】利府町で初めてのクラフトコーラと東北で唯一の梨のサイダー



「夜カフェ」でコーヒーを楽しむひととき

- TSUMUGI COFFEE ROASTERY【ドリップコーヒー、仙台市】

TSUMUGI COFFEE ROASTERYは、化学肥料や農薬を使用しない、体に優しいコーヒーを提供する小規模なコーヒーショップです。仙台市の富沢駅前を拠点に、三輪自転車を使ってコーヒードリップパックの移動販売を行っています。取り扱っているコーヒーは、すべて「農業・化学肥料不使用」または「栽培過程で農業や化学肥料を使わない」ものです。

コーヒーの焙煎は店主、平林勝さんが手がけており、南部鉄器の鍋を使用し、じっくりと丁寧に焙煎されています。毎週水曜日と金曜日に21時までtsumikiが開館していることを活かし、「夜カフェ」を開催。落ち着いた夜の雰囲気の中で、温かいコーヒーを味わいながら、特別なひとときを楽しむ時間を提案してくれました。



日本蜜蜂の蜜蝋(ミツロウ)で作ったキャンドル

利府町の養蜂家「彦雷のハニー工房」と、キャンドル作家「彩りの住処」のコラボレーションで新たな商品が誕生しました。日本蜜蜂の蜜蝋100%を使った小さなキャンドルです。一本で約30分ほど灯すことができます。一本一本、手作業で蜜蝋に浸けているため、表面は少し凸凹

tsumikiでは、起業創業支援の一環として、公募によって選ばれた商品を委託販売しています。公募は年に2回、前期と後期に分けて行われ、2024年度後期(2024年10月～2025年3月)の出品者は、食品や物品を扱う11店舗でした。tsumikiセレクトショップは、単なる商品販売の場としてだけでなく、実店舗を持たずに活動する小高い事業者にとっては、地域の人々に自分の商品を広め、PRする貴重な機会でもあります。また、出品者同士のコラボレーションや新商品の開発など、相乗効果が生まれていますので、その魅力をご紹介します。

イロイネン×orange nico お菓子のコラボ販売会

2つの店舗のコラボ販売会を行いました。「イロイネン」は、焼菓子やパンを作る4人のユニット。フィンランド語で「幸せ」「楽しい」という意味を持つ名前の通り、仲間同士で楽しみながら、体に優しいお菓子を手作りで提供しています。製作や販売だけでなく、会計やSNS発信などの業務も分担し、4人の個性を生かした運営が魅力です。

店主一人で営む「orange nico」は、製造から販売まですべてが手づくり。屋号



には「オレンジ色の太陽のように輝く笑顔」という願いが込められています。農業不使用の生米を使い、卵・乳製品・小麦粉・砂糖を使わずに作るグルテンフリーのお菓子が人気です。経営スタイルは異なる2組ですが、お菓子にかける熱意と、幸せや笑顔を届けたいという想いは共通。並んだ商品は、体に優しくて、おいしい焼菓子やパンばかりで、どれを選ぶか迷ってしまうと、お客さんの評判も上々。おたが情報交換をする中で生まれた今回の企画は、2つの店舗の魅力と特徴をいかした販売会になりました。

- イロイネン【焼菓子・パン、仙台市】
- orange nico【米粉・グルテンフリーのお菓子・ビーガンスイーツ、七ヶ浜町】

アップサイクルアートを体験する

- win_win_win【アクセサリ、仙台市】

「win_win_win」は、海洋プラスチックを素材に、不要になった物に新たな命を吹き込むアップサイクルアクセサリを制作・販売しています。使用する素材は、宮城県七ヶ浜町の葛蒲田海岸や仙台市深沼海水浴場に流れ着いた海洋プラスチックゴミです。その素材から生まれるアクセサリは、まるでプラスチックとは思えない透明感と美しい色合いが特徴です。また、海洋プラスチックがアクセサリに変わる過程を体験できるチャーム作りワークショップも開催。参加者は、海洋プラスチック問題について学びながら、アップサイクルで作られる作品に深い関心を持っていました。今後は利府町の浜から採取した海洋プラスチックも素材に使いたいと考えています。



from RIFU-CHO CHALLENGER

— CHALLENGER

利府町寺子屋プロジェクト 名取俊輔さん



子どもたちの学びと遊びの場

名取さんがプロジェクトリーダーを担っている「利府町寺子屋」は、NPO法人リフ超学校が企画運営する多団体連携プロジェクトです。町内有志が立ち上げた「市民活動研究会」メンバーの協力を得て、町内の集会所などを活用し、主に小・中学生を対象とした居場所づくりを行っています。活動拠点は、野中一部公民館から始まり、今では、森郷共生生産森郷森林組合事務所、青山三丁目集会所の3拠点に広がっています。寺子屋では、「まず最初の1時間は勉強をしましょう」というが約束。その後は季節の行事や町の特産品である利府梨の食べ比べ、料理・お菓子作りなど普段できない体験ができるプログラムを用意し、子どもたちが楽しく過ごせるような工夫をしています。

子どもたちに関わる活動がしたい

名取さんは、多賀城生まれの利府町育ち。教師になりたいという思いを持って大学に進学しましたが、地元で貢献したいという気持ちが強くなり利府町役場職員の道を選びました。2019年最初に配属された部署が秘書政策課(当時の政策課)。新設されたばかりのtsumiki担当として事業に関わる中で、市民活動団体の存在を知ることになりました。2022年頃から仕事の傍ら、リフ超学校の活動に参加。その中で兼ねてから考えていた、町内会集会所を活用し子どもたちの週末の学習支援と居場所をつくる「利府町寺子屋」構想を提案しました。活動が本格的に動き始めたのは、2023年2月頃。ちょうど同時期にtsumikiで開催された利府町ビジネスプロジェクトアワードに参加し、優秀賞を受賞したことで、徐々に寺子屋の活動が町内に認知されていったのでした。

大人も子どもも共に育つ環境づくり

子どもたちには、もっと学年を超えた友達や地域の大人たちと関わってほしいと願っています。そのためにはもっと町内の方々に、寺子屋の活動を理解してもらえるように努力が必要です。また資金調達にも苦労しますが、助成金などを利用しながら運営をしています。名取さんは、「活動を義務感でやったら楽しくない。自身の持っている熱量を傾けられることをやっていだけだよ」とビジネスプロジェクトアワードの時、審査員からアドバイスしてもらった言葉が心に残っているといます。だから「子どもたちに寺子屋という場所が必要とされ、自分の熱意と気力が続く限り、細く長く楽しく活動を続けたい」。やりがいや問われると「兼ねてからの想いが形になり、たくさんのスタッフや、子どもたち・保護者・地域の方に理解いただいている。本当にありがたいことです」と語り、今後は地元の高校生や大学生も巻き込んで一緒に楽しく活動をしていきたいと思いを膨らませています。

取材・文 松岡颯斗



利府町に令和版の寺子屋を復活 子どもたちの居場所と世代間交流の場をつくる

— INFORMATION

- Instagram @rifu_cho_gakko
- Website https://rifucho.com

tsumiki INFORMATION

2025

tsumiki チャレンジプロジェクトアワード 2025



tsumikiの機能や事業を活用した利用者の中から、さまざまなプロジェクトが生まれています。そんな方々を応援する「tsumikiチャレンジプロジェクトアワード」を開催。tsumikiが推薦する8件のプロジェクトの中から、今後の活動が飛躍できて応援したい3件のプロジェクトを選び、来年度1年間にわたり多方面からの支援を行っています。

【ノミネートプロジェクト】(順不同)	
●TSUMUGI COFFEE ROASTERY	●win_win_win
●利府町刈安染めプロジェクト	●あたらさ
●イロイネン	●もゆる庭
●atelier germerbleue	●彦雷のハニー工房

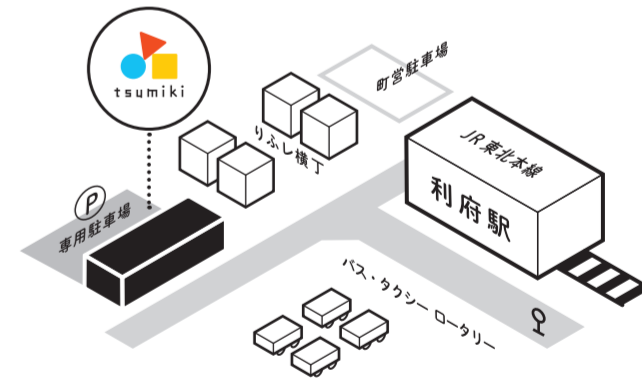
【アワード発表会】	
【日 時】	2025年3月22日(土) 13:00~15:00
【会 場】	利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki
【内 容】	ノミネートプロジェクトから選出された方によるプレゼンテーション
【審査員】	石川理恵(ライター&編集者&伴走業) 奥口文結(ブランドデザイナー) 佐藤由崇(復業者) 下戸涼(利府町商工観光課シティーセールス係)
【お問合せ】	利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumiki 022-766-9231 / info@rifu-tsumiki.jp
【主 催】	利府町
【運 営】	一般社団法人Granny Rideto



利用時間
9:30-17:30
(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置者 利府町(商工観光課シティーセールス係) 管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。起業・創業や「利府ならではの」シティーセールス政策や、移住・定住施策などに取り組んでいます。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェブサイト rifu-tsumiki.jp Twitter @rifu_tsumiki Facebook <tsumiki>で検索 Instagram @rifu_tsumiki

「つみきのきもち」は、利府町内を中心に隣接する市町村の公共施設、カフェ、店舗などで配布しています。

つみきのきもち vol.26 発行日●2025年3月20日 発行●利府町 企画●一般社団法人Granny Rideto 編集●葛西淳子・楳生和成(一般社団法人Granny Rideto) デザイン●伊瀬谷美貴(Intergaire)